

色彩教育における配色カードを使ったある一つの色彩構成の方法

The method on color education and using a color scheme card

久保田 寛 Satoru Kubota

株式会社スタイルカラーズ Style Colors Co.,Ltd.

Keywords: 色彩教育、色彩学、色彩調和、配色、パーソナルカラー、PCCS、配色カード、四季の色、4シーズン分類。

1. はじめに

大学や専門学校において「色彩学」という科目の内容は、科学、心理、色彩調和、色名、等と多岐に渡る。とりわけ色彩調和は理論だけでなく実習を含む。しかし、概ね創意工夫する配色ではなく、あくまでも配色名のルールを覚えるためのもので、色彩表現には至らない。配色の基本を学んだら、次のステップとして色数を増やした色彩構成を考えたいものだ。色彩学の中でパーソナルカラーを取り入れており、それに関連する配色カードを使った色彩構成の方法を紹介したい。

2. 目的

(1) パーソナルカラーの考えは、色相の片寄りから warm shift color と cool shift color に2分類され、更に明度と彩度により4シーズンタイプに分類される。これが四季のイメージに当て嵌められるという説明をするのだが、実際にイメージする四季と4シーズンの色群には異なる点がある。そこで、パーソナルカラーを教える前に、共通点と相違点を理解させるためのものである。

(2) 配色において美しいか否かは、美度計算によって同一色相の濃淡であるのは周知に通りであるが、人間が色を感じる基本の心理原色に基づき、ここでは6種類の色で色彩構成を考える。

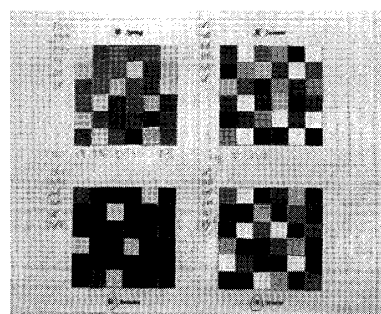
3. 方法

対象：常葉学園大学造形学部学生 78 名（男子 16 名、女子 62 名）による課題

使用するもの：配色カード 199、ハサミ、のり、配色カードを貼付する台紙

- ① 季節をイメージする色を配色カード全ての中から各季節に応じて6種類ずつ選ぶ。
- ② 台紙への貼付。選んだ配色カードを所定(1cm×1cm)の大きさに切り、各季節6枠×6枠=合計36枠を埋めていく。条件として、6種類の色は同じ枚数でなくても良い。但し、タテヨコに隣接する枠には同じカードは貼っては行けない。斜めは可とする。

春 夏

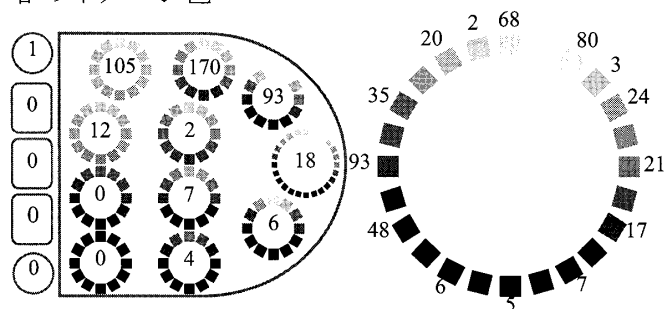


秋 冬

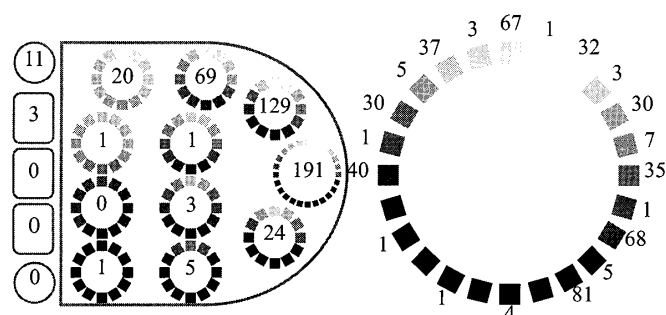
4. 結果

(1) 四季のイメージとして選択された色の特徴は、春 (b トーンを中心とした明清色)、夏 (v トーンを中心とした高彩度色と明清色)、秋 (dp トーンを中心とした高彩度～中彩度、暗清色)、冬 (無彩色と低彩度) の図に示す数字 (選択数) の通りである。

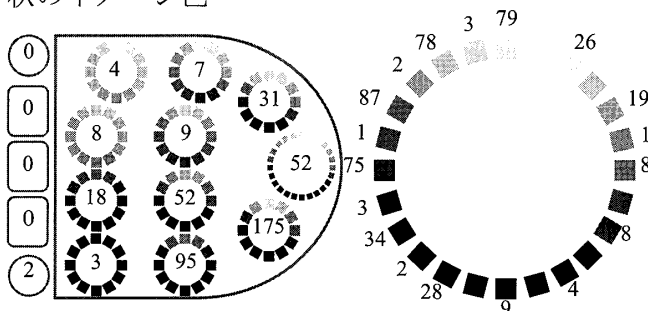
春のイメージ色



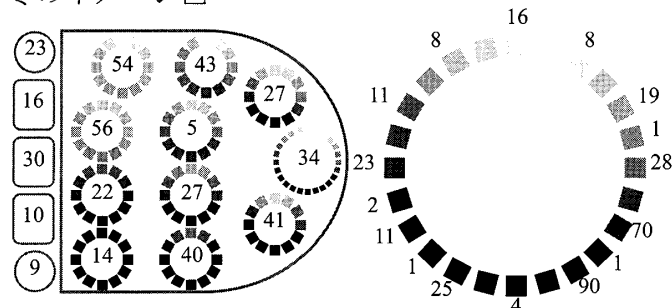
夏のイメージ色



秋のイメージ色

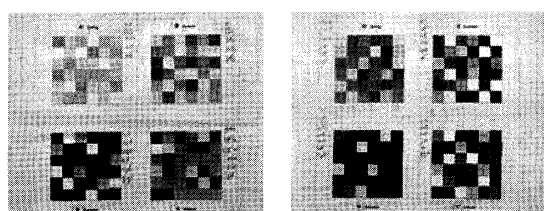


冬のイメージ色

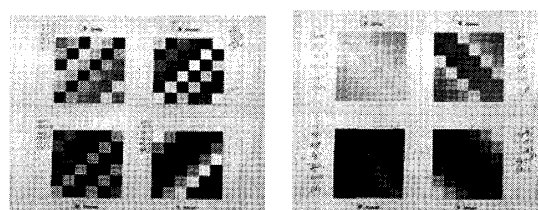


(2) 6種類の色による色彩構成を考える理由は、人間が感じる色は、心理原色6色のうち2色～4色の組み合わせによるが、最大数として赤、黄、緑、青、白、黒を1色ずつ選択した場合6種類となるからである。また、縦横に隣接する同じ色の使用は不可という条件をつけることにより、単純な手っ取り早い配色を避けることが出来る。ランダムでも規則的でも色の配置には創意工夫が必要となる。

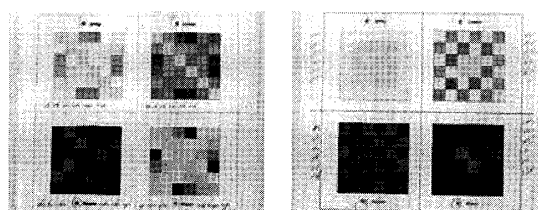
ランダムな色彩構成



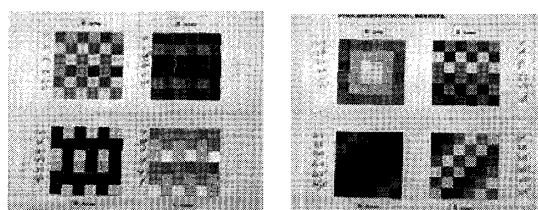
規則的な色彩構成



シンメトリー



レピテーション



他

5. 考察

パーソナルカラーに対する関心度が低い男子学生には、事前に四季イメージを表現させることが共通点と相違点を理解させる上で効果的だと感じる。色彩構成の演習に取り組む時期は、一般的な色彩調和論の後に行っており、これまでに学習した配色の形式に当て嵌まるものもあるので復習を兼ねる利点がある。色彩構成の種類としては、季節ごとに変化を与えたものと、四季を一年の繋がりとしてまとまりのあるものに分けられる。これも広義の意味で色彩調和の基本にある「統一」と「変化」が見て取れる。

【参考文献】

- 1) 「似合う色と表現する色彩との関連性を探る」2003.08 久保田覚
- 2) 「パーソナルカラー調和理論を取り入れた色彩教育の展開事例」2004.05 久保田覚
- 3) 「パーソナルカラー診断の曖昧となる要因の考察」2007.05 久保田覚